

第1回 医療安全セミナー

日 時：平成28年5月24日（火）17：30～18：30

主 催：日本小児外科学会 利益相反委員会

会 場：ヒルトン福岡シーホーク アルゴスE・F（JSPS第1会場）

講 師：岡田千春 先生（国立病院機構本部企画役（専門医養成担当）・病院支援部長）

テ ー マ：「医療安全とは 病院にとって 医師にとって」

内 容：医療にたずさわる者にとって、医療にかかわる安全を確保することは、常に重要課題であり、様々な対策、仕組みが考え出され実施されてきた。しかし、どんな対策、仕組みによっても医療事故をゼロにすることは困難である。よって、医師にとって医療を行う限り様々な有害事象に遭遇し、その対応をせざるを得ない状況に直面する。この有害事象には、医療事故、合併症が含まれてくるが、この二つは明確に区別することが困難で、特に境界領域はグレーゾーンとなる。さらにその有害事象の起因に医療過誤がかかわるかどうかでその対応も大きく異なってくる。医療過誤の場合、原因をつきとめ再発防止の方向に進むより、得てして責任追及に陥りがちで、医師をはじめとした医療側だけでなく、患者側にも多大のダメージを残す結果にもなる。この反省より、長年の議論の結果、昨年10月より医療事故調査制度が開始された。この制度では、予期せぬ有害事象、つまり医療事故と判断されれば、支援団体の支援を受け院内調査が行われ、原因、再発防止対策が医療事故調査・支援センターに報告が提出されることとなった。しかし、現時点までの状況は全国での報告書の提出が140件（平成28年2月現在）と想定を下回っており、また報告提出件数の地域格差が認められるなど、まだ十分機能していない可能性が懸念されている。また別の観点からは、医療事故は医師個人だけでなく、病院にとっても重大な影響があり、その対応を間違えると最悪の場合には病院の医療継続に支障を来すほどの事態に陥ることもあり得る。そこで、この講演では、医療事故を中心に、医師として、病院としてどう向き合うべきかを考察のうえ、開始された医療事故調査制度への対応についても述べたい。

事前登録は不要です。

利益相反委員会 担当理事 漆原 直人
委員長 増本 幸二

問い合わせ先：〒300-8575 茨城県つくば市天王台1-1-1
筑波大学医学医療系小児外科
利益相反委員会
委員長 増本 幸二
TEL：029-853-3094
FAX：029-853-3091

平成 28 年度 日本小児外科学会感染対策セミナー

- 日 時：平成 28 年 5 月 25 日（水）8：30～9：30
- 主 催：日本小児外科学会 利益相反委員会，倫理・安全管理委員会
- 会 場：ヒルトン福岡シーホーク アルゴス B（JSPS 第 2 会場）
- 講 師：岡田賢司 先生（福岡歯科大学全身管理・医歯学部門総合医学講座小児科学分野 教授）
- テ ー マ：小児外科疾患と予防接種—確認しておきたい予防接種の知識—
- 内 容：国内では，欧米とのワクチンギャップが少しずつ解消してきました．とくに乳幼児へ接種するワクチンの種類の増加に伴い，小児科では 3 本，4 本と同時接種する機会は増えてきました．“生後 2 か月からのワクチンデビュー”の効果も実感できるようになりました．当日は，次の 3 点について，ご紹介いたします．
1. 日本小児科学会が推奨する予防接種
「小児の臓器移植および免疫不全状態における予防接種ガイドライン 2014」の中では，固形臓器移植を予定している患児には，“日本小児科学会が推奨するすべての予防接種を定期・任意接種の接種可能な期間を参考に済ませることが望ましい．原疾患にかかわる禁忌事項がない限り可能な限り多くのワクチンを移植前に同時接種することを前提に接種すべきである”と記載されています．当日は，日本小児科学会が推奨している接種スケジュールを紹介しながら，それぞれのワクチンの有効性と安全性をまとめます．
 2. 全身麻酔と予防接種
全身麻酔が必要な予定手術の際の予防接種に関して，皆様のご施設では基準はございますか．国内外の現状をご紹介いたします．
 3. ロタウイルスワクチンと腸重積
ロタウイルスワクチン接種後の腸重積の懸念があります．とくに生後 3 か月未満では，開腹・腸切除など観血的処置がなされる割合が高いようです．国内外の現状を紹介させていただき，皆様からのご意見をいただければ，ありがたく存じます．

事前登録は不要です．

利益相反委員会および倫理・安全管理委員会 担当理事 漆原 直人
利益相反委員会 委員長 増本 幸二
倫理・安全管理委員会 委員長 野田 卓男

問い合わせ先：〒700-8558 岡山市北区鹿田町 2-5-1
岡山大学病院小児外科
倫理・安全管理委員会
委員長 野田 卓男
TEL：086-235-7255
FAX：086-235-7557

第6回 小児救急セミナー

日 時：2016年5月25日（水）17：50～18：50

会 場：ヒルトン福岡シーホーク アルゴスE・F（JSPS 第1会場）

主 催：日本小児外科学会 小児救急検討委員会

セミナー内容：北九州市立八幡病院小児救急センター 市川光太郎先生に「救急現場で児童虐待を見逃さないために！」というテーマで御講演いただきます。

なお、セミナー参加者には、参加証明書を発行する予定です。

事前登録は不要です。

日本小児外科学会小児救急検討委員会 担当理事 奥山 宏臣
委員長 吉澤 穰治

問い合わせ先：〒105-8461 港区西新橋3-25-8
東京慈恵会医科大学外科学講座
TEL：03-3433-1111

平成28年度 日本小児外科学会医療倫理セミナー

日 時：平成28年5月26日（木）8：00～9：00
主 催：日本小児外科学会 倫理・安全管理委員会
会 場：ヒルトン福岡シーホーク アルゴスE・F（JSPS 第1会場）
講 師：井原健二先生（大分大学小児科 教授）
テ ー マ：知っているとお小児外科診療にも役立つ臨床カウンセリングと医療倫理
内 容：胎児診断学の目覚ましい発展により、さまざまな先天性・遺伝性疾患が胎児期に高い精度で診断可能となっている。胎児超音波検査による先天性心臓病、水頭症、口唇口蓋裂、消化管閉鎖、横隔膜ヘルニアなどの形態異常は胎児期に的確な診断が可能となり、出生前からの母体へのメンタルケアと出生後の患児への速やかな治療介入など周産期チーム医療の重要性は日々高まっている。さらに、疾患を持った新生児の集中治療も革新的な発展を遂げており、加えて新生児マス・スクリーニングの対象疾患の大幅な拡大により発症を予防する疾患と医療体制も充実してきた。

この様な周産期医療環境の急速な変化の中で、新生児医療に関わるスタッフは古典的な臨床遺伝学の知識のみならず遺伝カウンセリングの知識と技術が要求される場面が増加している。疾患自体の説明に加えて、疾患の遺伝に関する説明から遺伝子診断・保因者診断・出生前診断・発症前診断など、遺伝に関する正確な知識と遺伝子検査や染色体検査に関する情報とその実施まで幅広くサポートすることが求められる。一方でその実施においては遺伝性疾患や先天奇形を持つ児を取り巻く社会状況にも慎重に対応する必要がある。患者の親族も遺伝性疾患に罹患している可能性や保因者診断の適否、自身と親族の遺伝情報を知る権利と知らない権利の存在、出生前検査の適否や法律の解釈など、様々な問題が挙げられる。そのためにはそれぞれの疾患の特徴や遺伝学的検査の背景に潜在する倫理的、法的問題についても理解し、さらに家族への情報提供と説明には慎重に対応する必要がある。

本講演では新生児医療の視点から遺伝医療の現状について概説し、明日からの小児外科診療の一助となるような遺伝カウンセリングの手法を紹介します。

事前登録は不要です。

倫理・安全管理委員会 担当理事 漆原 直人
委員 長 野田 卓男

問い合わせ先：〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1
岡山大学病院小児外科
倫理・安全管理委員会
委員 長 野田 卓男
TEL：086-235-7255
FAX：086-235-7557